



## DuMA ニュースレター

2025年10月20日

### 四国・九州沖の N-net のデータが緊急地震速報で活用開始

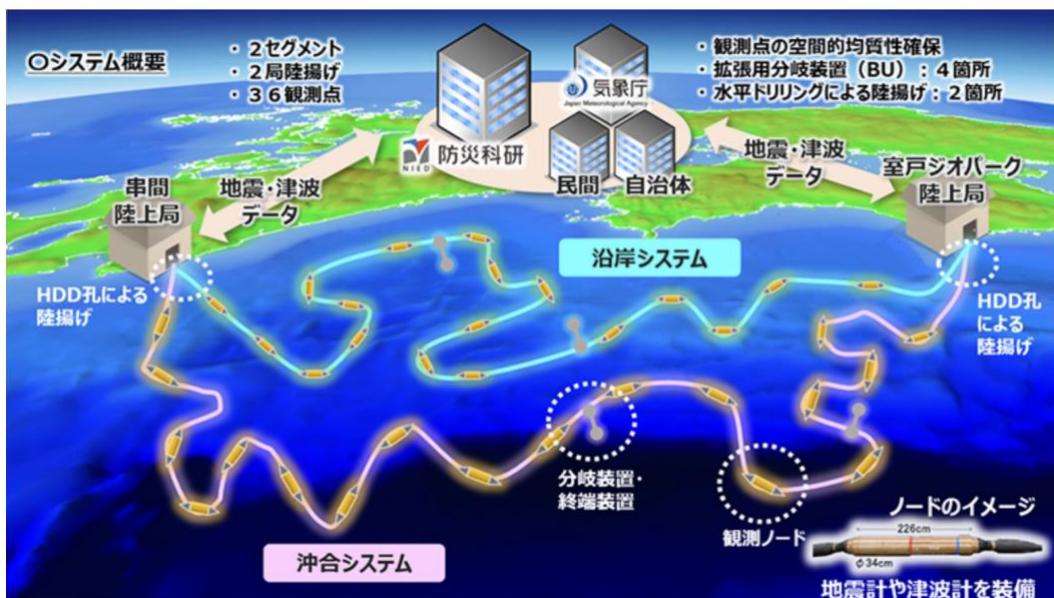
気象庁は、10月15日から南海トラフ地震の震源域と想定される高知県沖から日向灘付近で、地震を観測する海底ケーブル地震計システムの活用を新たに始めると発表しました。

この海底ケーブルシステムのデータを用いる事で、この地域で発生した地震の緊急地震速報発表は最大 20 秒早くなるとの事です。

緊急地震速報の説明として初動(P 波、縦波)と主要動(S 波、横波)の速度が違う(つまり、ある観測点での到達時間が違う)ので、その時間差を用いて緊急地震速報が発令されるという説明がなされる事が今でも時々みかけられます。

しかし本当に重要なのは、発生した地震の震源近くにその揺れを検知する地震計が存在する事がより本質的なのです。つまり地震計に揺れが到達すれば、その後、例えば気象庁にデータはいわば光速(海底ケーブルを使用して電気的に届く)で届く事になります。

つまり海域で発生した地震を陸上の地震計だけで検出するより、海底に地震計が設置してあれば、それが一番早く地震動を検知できる訳です。そのため、今回の「緊急地震速報は最大 20 秒早くなる」という発表につながったのです。



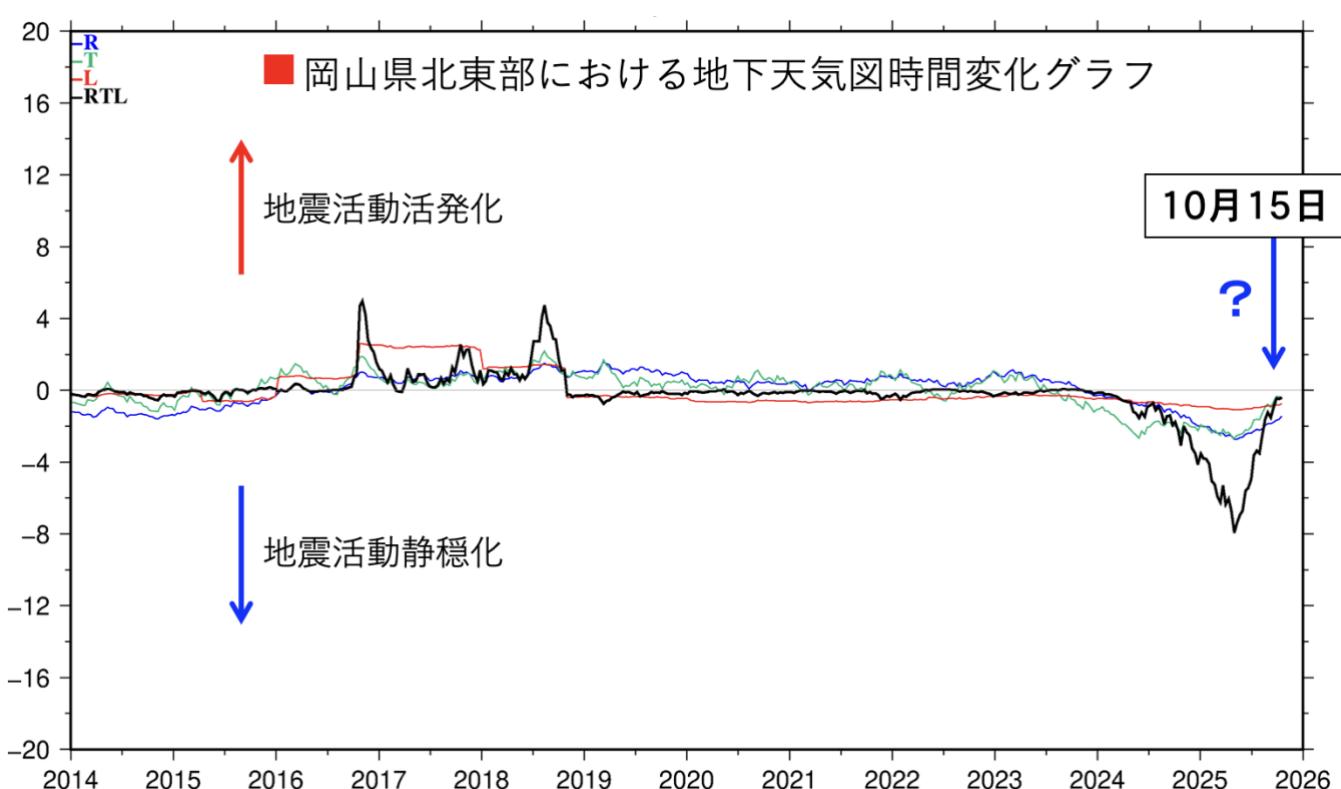
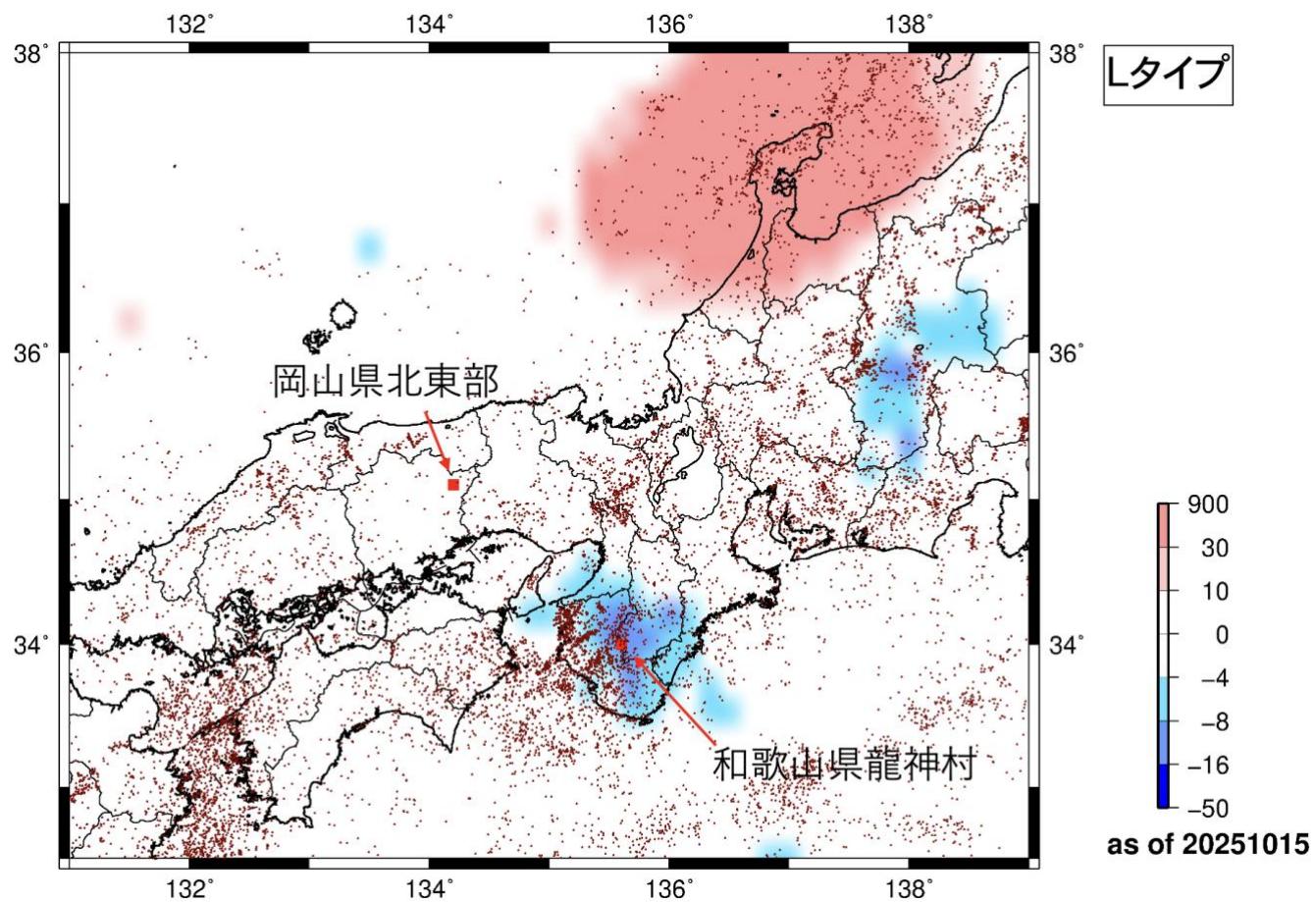
### 東海地方以西の地下天気図®

9月1日のニュースレターに続き、今週は中部・近畿・中国・四国地方の L タイプ地下天気図をお示します。

これまで継続的に報告させて頂いておりました中国地方の地震活動静穏化異常が消失している事が確認されました。中国地方では震発の準備が整ったと考えられます。

現在、地震活動静穏化の異常(図中で青い部分)は紀伊半島に移動したようです。

次ページ以降に10月15日時点の L タイプ地下天気図と、中国地方を代表して岡山県北東部の地下天気図時間変化グラフと新たに紀伊半島を代表して和歌山県田辺市龍神村における地下天気図時間変化グラフを掲載します。



上図から岡山県北東部では静穏化がほぼ完全に解消したことがわかります。



和歌山県田辺市の龍神村における地下天気図時間変化グラフ。現在地震活動静穏化が急激に進行している事がわかります。

グラフの見方については2025年9月1日号も併せてご覧ください。